

『吾妻鏡』の欠落を補う、鎌倉時代史研究の基本史料！
承久の乱後、朝幕関係の転換期を生き延びた廷臣の日記

【史料纂集古記録編 第218回配本】

平戸記 第1 (全3冊)

★全3冊定期予約募集！

奈良中世日記研究会校訂

(丹生谷哲一・生駒孝臣・岩田慎平・大島佳代・高正樹・斎木涼子・曾我部愛・吉江崇)

第1 2023年11月刊行予定 定価17,600円(本体16,000円+税)

A5判上製・函入・330頁 ISBN978-4-8406-5218-6 C3321 ¥16000E

【所収】延応2年(1240)正月～仁治3年(1242)9月



～『平戸記』とは～

平経高(1180-1255)の日記。姓の「平」と民部卿の唐名である「戸部尚書」の「戸」から『平戸記』と呼ばれ、『経高卿記』とも称される。平経高は治承4年(1180)、桓武平氏高棟流の平行範の子として生まれた。はじめ吉田経房の猶子となるが、のち復姓し藏人、弁官を経て元仁元年(1224)45歳にして従三位に叙され、公卿となる。建長7年(1255)、76歳で薨ずるまで八朝(後鳥羽～後深草天皇)に仕え、博学にして故実に通じ、関白九条道家の側近の一人である。現在、延応2(仁治元)・仁治3年、寛元2・3年の写本と部類記などに引用された逸文が伝存する。

〔本書の特長〕

① 底本に古写本を採用した最良のテキストを提供

『平戸記』の自筆原本はなく、南北朝期の書写と推定される伏見宮本、「明暦」の印記をもつ東山御文庫所蔵本(新写本)を主たる底本として翻刻・校訂を行った。長らく「史料大成」本が使用されてきたが、古写本を底本としていないという現況に鑑み、今回新たに諸写本を調査した上で校合を施した。また、標出(内容の要約)を付して読解の便宜を図った。

② 鎌倉時代の研究に不可欠の第一級の史料

『平戸記』には鎌倉幕府の基本文献である『吾妻鏡』で欠落する仁治3年の記事が収録されている。記主の経高は、承久の乱後の親幕府派に信任され、朝廷の政務や故実に通じた人物として人々から一目置かれていた。そのため、本書は公武に関わる記事に富む。第1冊には高麗国牒状など外交の記事、仁治改元における年号勘文や除目における聞書など朝廷政務に関わる文書、後嵯峨天皇の即位・大嘗祭の関連記事、関東の鎌倉幕府・京都の九条家の動向に関する記事などが収録されている。



八木書店

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8 ●Web <https://catalogue.books-yagi.co.jp/>

●TEL 03-3291-2961 [営業]-2969 [編集] ●FAX 03-3291-6300 ●E-mail pub@books-yagi.o.jp

